

課題1 次の文章を読んで、あとの(1)～(4)に答えましょう。

(Ⅱ-1)	
受検 番号	

※

3※

2※

1※

「より自由になるために学ぶ」と言いましたが、「自由になる」というこの意味をもう少し考えてみましょう。
人間は、「偏見や思い込み」といったものから解放されると、より自由になれます。
*2 類人猿からヒトになっていくプロセスの中で、いろいろな哺乳類がいたわけですが、ホモ属だけが飛躍的に進化しました。なぜかという、ホモ属には類まれな学習能力があったからです。

ホモ属は進化の過程で「工夫する力」を身につけてきましたが、同時にある脳の構造を生み出したといわれています。
すべてのことを、ゼロから考えていたのでは間に合わない。あることを経験してうまくいったら、それを頭の中に回路としてつくって、いつもそれを使うようにする。そういう回路を増やしていったのです。たとえば、「この天気なら、海で必ずこういう獲物が捕れる」という経験に裏づけられた回路をつくります。二、三回うまくいくと、その回路を信じて行動するようになります。
しかし、これはあくまで、特定の地域でしか通用しないものです。その回路を覚えた人が、まったく別の場所に行って同じことをやつても、なかなかうまくいきません。

すると、「お前が、ちゃんとやらなかったからだ」「誰かが変なことを願ったからだ」などと言って、一緒にいる仲間のせいにしたります。自分の知識を疑おうとせず、誰かに責任を転嫁して敵視するようになり、時にこれが戦の原因にもなります。
行動範囲が広がり、環境の変化が激しくなると、あるひとつの知識だけでは通用しなくなります。しかし、人間にはそれらしい知識を身につけると、それを信じて、その知識をいつも使おうとする、そういう癖があります。

人間は進化の過程で、いくつかの回路をつくり上げることによって、思考の無駄をなくそうとしました。しかしそのことで同時に、偏見や思い込みというものを生み出してしまうという習癖も、一緒に身につけてしまったわけです。

人間が学ぶうえでは、どうしても偏見や思い込みが介在しがちです。最初に得た知識は、いつ何時でも通用すると思い込みやすいのです。

その知識が、特定の場所でしか通用しない、あるいは非常に個人的な説に過ぎない、ということを理解することでより自由になれるのですが、そこがなかなかうまくできない。

偏見が群集心理になったとき、「あいつは許せない」ということになって戦争を容認する心理が生まれます。人間が本当に賢くなったら、戦争、つまり殺し合い、破壊し合いなんておこらないでしょう。

ですから、僕はただ、がむしやらに知識を詰め込みなさいと言っているわけではないのです。学んだことを単純に信じたりせず、いい意味で批判的にならなくてはいけないということです。」「

X

」と思うバランス感覚が絶対に必要です。ひとつの知識が、いつ何時でも通用すると思ひ込んでしまうのは、非常に怖いことです。

学ぶということは、そういった思い込みや偏見から脱却していくことなのです。ひとつのことを知っておしまい、ではいけないということです。「そういうことが成り立つ場合もあるだろうけれど、それはあくまで誰かの個人的な意見かもしれない。僕は他の人の意見も聞きたい」というふうにならなければいけないのです。

偏見から解放されていくためにも、私たちはもっと学ばなければいけません。これは、自由になるための大事な条件です。

(汐見稔幸『人生を豊かにする学び方』から)

*1 偏見…かたよって一方的な、まちがった考え方や見方。
*2 類人猿…サルの仲間のうちで最も進化したもので、人間に近いもの。

*3 プロセス…ものが進んできた順序。過程。
*4 ホモ属…動物学上の分類で、人類が属する仲間の名まえ。

*5 回路…ひとまわりの流れを持った道すじ。
*6 転嫁…自分の責任や罪などを他人のせいにしておしつけること。

*7 癖…直したほうがよいと思われるくせ。習癖。
*8 介在…ものごととものごとの間にはさまって存在すること。

*9 群集心理…群集の一員になったときに生じる冷静さを欠いた心理。
*10 脱却…ぬけでること。のがれでること。

(1) ――「がむしやらに」という言葉は、どのような様子をあらわしていますか。その説明として次の

--

 に適当な言葉を書きましょう。

※

--

を考えず、

--

ものごとを行う様子。

※

--

(2)

X

の中には、どのような文を書き入れるのがよいですか。本文の中で、

--

の前と後に書かれていることから判断して、適当だと思われる一文を考えて書きましょう。

X

X

の前と後に書か

